

2021 年度 一般社団法人日本臨床化学会 第 1 回理事会 Web 開催議事録

日 時：2021 年 6 月 19 日（土）14：30～15：50

議 長：三井田孝（理事長）

出席者：三井田孝（理事長）、菅野光俊、三浦雅一、山田俊幸、吉田 博（以上 常務理事）

川崎健治、川野克己、恵 淑萍、河野麻理、小谷和彦、酒瀬川信一、柴田綾子、城野博史、
中川沙織、濱田悦子、堀田多恵子、村上正巳（以上 理事）

前川真人、矢富 裕（以上監事）

欠席者：坂本秀生、仁井見英樹（理事）

理事出席者数 17 名（理事数 19 名）、全出席者数 19 名

議 題

1. 開会の辞（三井田 理事長）

- ・理事総数 19 名中 17 名の出席があり理事会は成立した。
- ・理事長より開会の挨拶があった。

2. 議事録確認者の指名（三井田 理事長）

- ・恵 淑萍 理事、城野博史 理事が指名された。

3. 報告事項

1) 庶務報告（山田 庶務担当理事）

①学会会員現状報告

- ・学会会員数の現状報告がなされた。
- ・会員数の増加が滞ってきている。会員増に向けて努力していく。

②事業報告・事業計画

- ・事業報告ならびに事業計画に関する報告がなされた。
- ・各種会議等は Web にて開催され、学会誌は予定通り発行されている。

2) 2021 年度学会賞・Young Investigator Award 報告（村上 学術担当理事）

- ・2021 年度の学会賞ならびに YIA の受賞者が決定した旨報告がなされた。
- ・学術賞は例年 1 名だが、今回は 2 名の選出とした。

<学会賞>

学術賞：後藤和人氏（九州大学病院）、末廣 寛氏（山口大学大学院医学系研究科）

奨励賞：神力 悟氏（熊本大学大学院生命科学研究部）、堀 敦詞氏（順天堂大学大学院医学研究科）

技術賞：シスメックス株式会社、富士レビオ株式会社

論文賞：後藤好恵氏（東北大学病院）

<Young Investigator Award (YIA)>

北海道支部：陳 震氏（北海道大学大学院保健科学研究院）

東北支部：高橋昇之氏（東北大学病院）

関東支部：石毛崇之氏（千葉大学医学部附属病院）

甲信越支部：阿部拓也氏（新潟医療福祉大学）

東海・北陸支部：該当者なし

近畿支部：該当者なし

中国支部：該当者なし

四国支部：菅崎幹樹氏（徳島大学病院）

九州支部：上田沙央理氏（九州大学病院）

2) 2020 年度利益相反調査報告（柴田 法務担当理事）

- ・2020 年度に関する利益相反調査の報告がなされた。
- ・対象者 222 名中 198 名の回答があり、回答率は 89.2%である。

- ・今年度より調査方法を Web での回答方式に変更した。
- ・利益相反ありという回答は 26 名であった。
- ・未回答者 24 名の内訳は 3 年連続未回答者 5 名、2 年連続未回答 5 名、今年度のみ未回答 14 名である。
- ・今回の調査による検討事項 3 件について下記のとおり対応する。

①複数年度未提出者への対応について

- ・未提出の方の対応については検討する必要がある。昨年同様、理事長・委員長連名で、書面を送付し、回答を促す。回答がない場合は評議員または委員を辞退していただく場合もある旨記載する。

②Web 調査のフォーマットについて

- ・検討が必要な個所があるため、次年度に向けて委員会で検討する。

③回答に関する保管方法について

- ・内規等での定めがないため、保管方法について検討する必要がある。

4) 学会誌紙媒体廃止に関する作業予定 (小谷 編集担当理事)

- ・2022 年 1 月発行の第 51 巻第 1 号から冊子体を廃止することが確定している。
- ・会員、購読先、広告企業への周知を図る必要があり、第 50 巻第 4 号に会告として掲載する。
- ・広告企業へはバナー広告への移行なども検討していただくよう集会・広報委員会と共に検討する。理事の方には関連する企業にバナー広告掲載の依頼をお願いしたい。
- ・ホームページ (会員専用ページ) に掲載するデータは論文毎に PDF 化する。
- ・名誉会員、有功会員には書面にてご案内を送付する。

5) 第 61 回年次学術集会準備状況報告 (堀田 第 61 回年次学術集会事務局長)

- ・進捗状況について報告がなされた。
集 会 長：康 東天 (九州大学大学院医学研究院 臨床検査医学 教授)
会 期：2021 年 11 月 5 日 (金) ~7 日 (日)
会 場：福岡国際会議場 (〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町 2-1)
- ・演題募集が滞っているため、募集期間を延期し、演題応募の依頼を進めている。
- ・プロジェクト報告について早めに回答をお願いしたい。
- ・開催形式については今後の状況を鑑みて慎重に検討し、7 月末にはリアル開催または完全 Web 開催のどちらかに決定したい。
- ・企業シンポジウムはマレーシアの先生に依頼したいという報告があった。年次学術集会ホームページの英文ページがあれば案内をしたいという依頼があり作成する。

6) その他 (三井田 理事長)

①第 68 回日本臨床検査医学会共催シンポジウム

- ・第 68 回日本臨床検査医学会より共催シンポジウムのテーマに関する依頼があり、今年度は POCT 専門会に依頼した。テーマは「POCT に対する検査室の責任—現状・課題・今後」として 4 名の先生に講演を依頼している。
- ・日本臨床検査医学会の共催シンポジウムは例年依頼があるが、回答までの期間が短く、検討が難しい。そのため、理事長より、今後は学術連絡委員会に担当していただき、次年度のテーマについて事前に検討を進めてもらうよう依頼したい旨提案があり承認された。

②IFCC 委員会メンバー推薦

- ・例年、IFCC より委員会メンバー推薦の依頼がある。現在依頼があった件については下記のとおり候補者を選出し、推薦予定である。

Task Force Outcome Studies in Laboratory Medicine : 涌井昌俊先生

Task Force Global Reference Interval Database : 堀田多恵子先生

Committee on Kidney Disease (C-KD) : 和田隆志先生

③Worldlab-Euromedlab 2023

- ・ Worldlab-Euromedlab 2023 より、トピックとして取り上げてほしい項目を最大で4項目まで提案してほしい旨依頼があり、下記の4件について提案した。

- ・ Harmonization/Standardization of hormone tests (e, g, TSH, FT4, Aldosterone)
- ・ Validation of laboratory tests and methods in cancer genomic medicine
- ・ Measurement of HDL functionality and its clinical significance
- ・ Clinical significances of serum autotaxin level

④IACC conference

- ・ 6月25-27日にインドネシアで開催されるIACC2021について報告があり、学会ホームページ、会員宛メールにて通知する。

⑤公益社団法人 日本臨床検査標準協議会 (JCCLS) 理事候補者選出

- ・ 前川真人先生、濱崎直孝先生、植田成先生、山舘周恒先生の4名を推薦し日本臨床検査標準協議会にて承認された。

⑥Zoom 契約

- ・ 本会名でアカウントを取得したため、今後は本アカウントでZoomによる会議開催が可能となる。必要な場合には事務局に連絡する。

⑦池田先生の追悼文

- ・ 安東由喜雄先生に追悼文の執筆を依頼した。写真と共に学会誌に掲載する。

4. 協議事項

1) 会計関連 (三浦 会計担当理事)

①2020 年度決算案について

- ・ 決算案ならびに貸借対照表、正味財産計算書、財産目録について説明がなされた。
- ・ 今期は第60回年次学術集会からの戻り金(約330万円)や補助金の返金などがあり収入増、また会議がWeb開催になったこと、経費の節約などによる支出減により、約786万円の黒字決算となった。
- ・ 学会財政も安定してきたので、学会の活性化のため、活発な学会活動を行うため提案をお願いしたい。

②監査報告 (矢富 監事、前川 監事)

- ・ 2名の監事より、正当に執行されている旨確認したとの報告がなされた。

③2022 年度予算案について (三浦 会計担当理事)

- ・ 2022 年度予算案について説明がなされた。
- ・ 原則として前年度の予算を踏襲して作成している。
- ・ 学会誌の冊子体廃止が決定しているため、広告収入の減少の可能性があり減収とした。
- ・ 今後、学会活動の予定が確定したら、予算案に反映させていく。

2) 選挙区分表記 (評議員選出領域) について (三井田 理事長)

- ・ 評議員の選出領域がわかりづらいため、常務理事会より下記の改定案が提案され承認された。

(1) 医師、(2) 教育・研究職、(3) 医療職、(4) 産業系

- ・ (2) 教育・研究職、(3) 医療職については、例を提示し、より分かりやすくする予定。
- ・ 変更が確定したら同時に細則(第2条4)の表記ならびに会員データベースの区分も変更する。

3) 若手育成委員会について (小谷 理事)

- ・ あり方検討委員会の下部組織として活動を始めている旨報告がなされた。
- ・ メンバーは下記のとおり。

委員長 小谷和彦氏、理事長 三井田孝氏、あり方検討委員会委員長 川崎健治氏
委員 石井直仁氏、大川龍之介氏、菊地良介氏、中川央充氏

- ・若手を育成しながら、持続可能な学会としたい。関東支部で開催している勉強会を各支部に広める、質問箱なども用いながら自由に意見交換していくなど、検討を進めている。
- ・ウェビナー形式で勉強会を開催したい。費用についてはあり方検討委員会から予算を申請する。
- ・あり方検討委員会の下部組織のため、「若手育成委員会」という名称を小委員会にするなど検討する。
- ・前川監事より、費用の流れを明確にすること、非会員からは勉強会の参加費を徴収するなどを検討することも必要ではないかというご意見を頂いた。勉強会については、具体的な内容が決定した段階で、会員のメリットを考慮したうえで詳細を検討する。

4) 年次学術集会における学会と学術集會長の役割分担について (三井田 理事長)

- ・年次学術集会時のセッション(「学生シンポジウム」「認定制度の講習会」「企業シンポジウム」など)について担当者が不明なものが多くわかりづらいので担当を明確にしたい。また、学生シンポジウムについてはトラベルグラントの費用を年次学術集会で負担していたが、今後は学会主体として進めて費用も学会で負担したらどうかという提案がなされた。
- ・学生シンポジウムは日本医学教育学会との共催で始まったセッションである。学生シンポジストの選考について明記された規約がなく、学会賞の一つとしてトラベルグラントを出すことが適切であると判断できる根拠がない。また、演題登録時に申請した場合に学会賞選考委員会で検討するにも時間的な制約がある。これらの問題点があることから、担当する委員会を現段階で決定することは難しく、継続審議とする。

5) 認定臨床化学者申請募集要項について (濱田 教育担当理事)

①認定臨床化学者募集要項の変更

- ・認定臨床化学者募集要項(更新用)について、理事会より「筆頭演者、筆頭著者」という条件が厳しいのではという意見があり、教育委員会で再度検討し、以下のように提案し承認された。

・論文および総説について

申請される業績のうち少なくとも1題は申請者が筆頭であることという文面を削除。

・口頭またはポスター発表について

申請される業績のうち少なくとも1題は申請者が演者として発表したものを含むという文面を削除。

- ・年次学術集会などへの参加単位だけでも更新申請は可能である旨再度確認した。
- ・募集要項の説明が不十分という意見があり、説明文を追加する。

②2021年度の認定臨床化学者申請

- ・新規:5名、更新:14名(4回目:3名、3回目:2名、2回目:4名、1回目:5名)

③認定臨床化学・免疫化学精度保証管理者試験予定

- ・日本臨床衛生検査技師会とは別会場とし、2022年1月23日(日)に文京学院大学での開催を検討中。日程は変更の可能性あり。指定講習会は年次学術集会時に例年同様開催する。

5. その他 (三井田 理事長)

①次回理事会・社員総会日程

- ・2021年11月5日(金)年次学術集会時に開催予定。

②役員登記

- ・社員総会後に役員登記を実施する。

以上

2021年7月12日

議長

三井田 孝



議事録確認者

惠、淑萍



議事録確認者

城野博史

